

6 課

8月6日

力の限りに闘う



安息日午後 7月30日

暗唱聖句

わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力により、苦闘しながら努力しているのである。(コロサイ1:29、口語訳)

このために、わたしは労苦しており、わたしの内に力強く働く、キリストの力によって闘っています。(コロサイ1:29、新共同訳)

今週の聖句

ヨハネ16:5~15、コロサイ1:28、29、1ペトロ1:13、マタイ5:29、創世記32章

今週のテーマ

一組の男女があるトークショーに出演していました。2人とも子どもを殺人によって失う経験をしていました。女性の息子が20年前に殺されて以来、彼女の怒りと悲痛の大きさは今も変わっていませんでした。男性はまったく違いました。彼の娘は女性の息子の死の数年前にテロリストによって殺されていましたが、彼は殺人者を赦し、神によって心の傷がいやされたことを語りました。その痛みはなお激しいものでしたが、この男性は、私たちの人生の最も暗い時に神がどのようにいやしてくださるかについての事例となったのでした。

今週のポイント

自己と罪との闘いにおいて、意志の果たす役割とは何でしょうか。そして意志の力とは何でしょうか。感情に支配されたまま何かを決断するという過ちを避けるためには、どうすればよいのでしょうか。私たちはなぜ、試練の中であって諦めることなく、耐え抜かなければならないのでしょうか。

あなたは「神様、私を良い人間にしてください」と祈っても何も変わらないと感じたことはありませんか。神の偉大な変える力が私たちの内に働くように祈り求めても、私たちの生活が何も変わらないということがなぜ起きるのでしょうか。私たちは、神が無限の力の源であって、それを私たちにただで与えたいと望んでおられることを知っています。それをすべていただきたいと思いつつも、なお私たちの人生は神が望まれるようには変わらないように見えます。

なぜでしょうか。その理由は驚くほど単純です。聖霊は私たちを変えようとする無限の力を持っておられますが、私たちが自分の選択によって、神がなさることに抵抗することが可能だからです。

問1 ヨハネ 16 : 5～15 を読んでください。ここでイエスは聖霊を「真理の霊」(ヨハ 16 : 13) と呼んでいます。この呼び名は聖霊の働きについて何を示していますか。

聖霊は私たちの罪深さについて真理を示しますが、悔い改めさせることはできません。同じように、私たちに神についての最大の真理を示すことはできませんが、それを信じ、従うよう強制することはできません。神がもしほんのわずかでも私たちを強制されたなら、私たちは自由意志を失うでしょう。そしてサタンは、神は私たちの心と意思を操作していると非難し、大争闘において神の誤りを告発するでしょう。天において大争闘が始まったとき、父なる神はサタンや天使たちにご自分が善で公正であると信じるように強いることも、天使たちに悔い改めを強いることもされませんでした。さらにエデンの園において、大きな危険を承知の上で、園の中央にある木についての真実を明確にされましたが、神はエバとアダムが従わないことを選ぶために彼らの自由意志を制限されませんでした。今日、私たちに對する神の行動も同じです。だからこそ、聖霊は神と罪についての真理を示して次のように言われるのです。「わたしがすでに示した真理を見て、あなたはどのように応答しますか」

私たちが試練の中にいるときも同じです。試練があるのは、紛れもなく、私たちが従わず、悔い改めなかった場合もあります。そのようなときに働こうと待機している父なる神がおられるからこそ、私たちは、神の力が私たちの内に働いて私たちを変えられることができるように、悔い改めと服従の扉を開くことを意識的に選ぶ必要があります。

あなたがやり遂げた中で最も大きいことは何ですか。あなたが達成したことが何であれ、それは単純に朝ベッドから抜け出ただけで達成できるというようなものではなかったはずです。人生で価値あることを成し遂げようと思えば、時間と努力を費やさねばなりません。私たちがキリストの弟子になることも同じです。

問2 コロサイ 1：28、29 を読んでください。パウロは彼の中に働いている神について語りながら、そこに必要な人の努力についてどのように語っていますか (申 4：4、ルカ 13：24、1 コリ 9：25、ヘブ 12：4 参照)。

コロサイ 1：29において、パウロは人間のうちに働かれる神と人間の努力の関係について、非常に興味深い洞察をしています。自分は闘ってはいるが、キリストの力によって闘うのだと言います。「労苦する」という言葉は、「疲れて弱る」または「疲れ切るまで働く」ことを意味します。この言葉はとりわけ、アスリートのトレーニングにおいて使われます。次に「闘う」という言葉が出てきますが、これは「苦しむ」という意味も含む言葉です。ですからこの言葉は、勝つためにあらゆる努力を惜しまないアスリートの姿を描いています。しかしパウロは、ここで発想の転換をします。彼は自分の力ではなく、神が彼に与えられた力で闘っているというのです。そこで私たちは、パウロの働きについての単純な結論に行き着きます。すなわち、彼の働きは、彼個人の大変な努力と鍛錬によるものではありませんが、それは神の力によってなされたものであるということです。この関係はまさしく、私たちがキリストの品性を養うときにも言えることです。

これは覚えておくべき重要なことです。なぜなら、私たちはより少ない努力でより多くのものを手に入れようとする世界に生きているからです。この考えはキリスト教の中にも忍び込んでおり、キリスト教の牧師の中には、ただ信じさえすれば聖霊が降り、その驚くべき超自然の力によって大きな奇跡が起きると約束する者たちがいます。しかし、これは半分だけ真実の危険な思想です。なぜならこの考えは人々を、安穏と座ったままで、ただ神の力が降るのを待っていればいいのだという結論に導くからです。

あなたはパウロが語っている種類の闘いを経験したことがありますか。神はあなたが何と闘っているのかを示されましたか。私たちはどうすれば神の意志に屈服することを学ぶことができるでしょうか。

私たちの意志の最大の敵は、私たち自身の感情です。私たちは直接感覚に訴えることができる写真や音楽が氾濫した社会の中に生きており、気づかないうちに、怒り、恐れ、欲望といった感情の引き金を引いているのです。私たちは、「さて夕飯を食べる今の気分は?」「これをする今日の気分は?」「これを買ったらどんな気分かな?」などと、どんなに多く考えていることでしょう。このように〔人がそれを認識しなくとも〕、感情は意志決定に密接に関わっています。感情は必ずしも悪いものではありませんが、私たちの感情は、何が正しく、最善かといった判断にはほとんど関係なく働きます。実際、感情は人を欺き(「心はよろずの物よりも偽るもので」〔エレ17:9、口語訳〕)、現実をゆがめて見せ、誤った決断をさせ、その結果人は自ら試練を招くのです。

問3 聖書の中に、神の御言葉ではなく、感情で決断した人々のどのような例がありますか。その結果はどのようなものでしたか。(創3:6、サム下11:2~4、ガラ2:11、12)

問4 1ペトロ1:13を読んでください。ペトロは何を気づかい、読者に実際にどうするよう勧めていますか。

ペトロは、理性は体をコントロールする舵^{かじ}であると理解していました。理性という舵を失えば、人は感情の風の吹くままに流されてしまうでしょう。

細い道を羊飼いの家に向かって歩いていると想像してください。その道にはたくさんの脇道があります。その中には、いかにも行きたくない道や、魅力的で私たちの感情、衝動あるいは欲望に訴えかける道があります。人はそれらの道のどれでも選択できますが、それは正しい道からそれさせ、ひとたび踏み込むと抜け出すのが非常に困難な道であるかもしれません。

あなたは今どのような重要な決断を迫られていますか。「私は神の御言葉に反して、感情、衝動、欲望のままに道を選ぼうとしていないだろうか」と自分に尋ねてください。

「もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである」(マタ5:29)。

問5 上のイエスの言葉をよく考えてみてください。これは過激な言葉だと思えますか。

「過激な」措置が必要とされるのは、必ずしも神がクリスチャン人生を困難なものにされるからではありません。そうではなく、私たちと私たちの社会が神のご計画からあまりに遠く離れてしまったからなのです。人は朝目覚めて、ふと不思議に思います。「私はどのようにしてこんなに神から離れてしまったのだらうか」と。その答えはいつも同じです。一歩ずつです。

マタイ5:29、30を読んでください。ここでイエスは性的な罪について語っていますが、そこには他の罪に対する場合にも共通する根本的な原則が語られています。実際に、この原則はキリストにある成長に共通して適用できるものです。

問6 マタイ5:29、30でイエスはどのような重要な点を指摘していますか。私たちは文字通り、本当に体を傷つけるように求められているのでしょうか。

イエスは私たちの身体を傷つけるようお求めにはなりません。まったくそうではありません。むしろ、イエスはどのような犠牲を払ってでも、私たちに心を制御し、それによって体を制御するように教えておられるのです。この聖句は、私たちが祈りさえすれば、神がすぐにでも私たちの生活の罪深い傾向を取り除いてくださるとは言っていません。神は時に、あわれみ深くもそのようにしてくださいますが、主はしばしば、私たちに何かをあきらめ、またはやろうとしない何かを始めるために「過激な」措置をお求めになります。これは厳しい試練です。より多く正しい選びをするほど、私たちの意志はより強くなります。そして、生活の中の誘惑の力はより弱くなるのです。

神は、周囲の騒音に心を奪われている私たちの注意を引くために、試練をお用いになることがあります。その試練の中で、私たちはどれほど神から離れていたかに気づくのです。試練は、私たちが父なる神のご計画に戻るために強い決断をさせるための招きであると言えるかもしれません。

問7 神と格闘したヤコブの物語を読んでください(創32章)。この物語は、大きな失望の中でも忍耐することについて私たちに何を教えていますか(ヤコブが置かれた状況全体を頭に置いて答えましょう)。

私たちは何が正しいか、そしてその正しいことを実行するためには意志を働かせなければならないことは知っています。しかし、プレッシャーを感じているときには、神とその約束にすがり続けることは難しいものです。私たちが弱く、恐れを感じるのはそのためです。だからこそ、そのような時のクリスチャンの重要な力の一つは忍耐です。それは投げ出したくなくても継続する能力です。

聖書において最も偉大な忍耐の模範はヤコブです。神との格闘の何年も前に、ヤコブは兄エサウと父をだまして長子の特権を奪いました(創27章)。それ以来、ヤコブは、エサウの殺意を恐れて逃亡していました。天に達する階段の夢で、神の導きと祝福のすばらしい約束を与えられてはいましたが(同28章)、彼はなおおそれていました。ヤコブは、神に受け入れられ、何年も前に彼に与えられた約束はなお真実であるという神の保証を切望していました。彼が、実はイエスだと思われる天使と闘ったとき、腿の関節が外されます。耐えがたい痛みのために、彼は闘えなくなります。闘う代わりにしがみつこうようになります。その耐えがたい痛みの中で、ヤコブは祝福の保証を受けるまでイエスにしがみついて離れませんでした。そこでイエスは彼に言います。「もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから」(同32:27〔口語訳32:26〕)。

ヤコブの祝福は、彼が痛みを耐えつつしがみついたからこそ与えられたものでした。これは私たちも同じです。神はまた私たちの「腿の関節」を外し、その痛みを耐えながら主にしがみつこうように求められます。実際に、神は彼に痛む傷跡を残されたので、ヤコブは兄に会ったとき、まだ足を引きずっていました。彼の外見は弱っていましたが、ヤコブにとってその傷跡は、彼の力を示すものでした。

今、失望と誘惑の中で、主が与えられる試練に粘り強く忍耐するために、あなたができる具体的な選択(交際、ライフスタイル、読み物、生活習慣、霊的生活など)は何でしょうか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第18章「苦闘の一夜」、『キリストへの道』「献身」の章を読んでください。

「人の品性を形づくる上で非常に大切な要素であるこの意志は、人類が墮落した時にサタンの支配下に置かれ、それ以来サタンは絶えず人のうちに働いて、その思いのままに意志を持たせ、行わせ、人を全くの不幸と滅びに至らせているのです」（『教会への証』第5巻515ページ、英文）。

「人間は、神の助けを受けるために、まず自分の弱さ、足りなさを自覚しなければならない。彼は、自分の中に大いなる変化が起こるように専心努力しなければならない。彼は、目をさまして熱心にたゆまず祈り、努力しなければならない。悪い習慣や風習は捨てなければならない。これらのあやまちを正し、正しい原則に調和するように堅く決心して励んでこそ、勝利は得られるのである。多く的人是、当然得られる地位を得られないでいる。というのは、彼らが自分で実行するように神から力が与えられているのに、神が彼らのためにして下さるのを待っているからである。有用な働きにふさわしい者はすべて、最もきびしい、知的、道徳的訓練によって鍛えられなければならない。そのとき、神は人間の努力に神の力を加えて助けて下さるのである」（『希望への光』126ページ、『人類のあけぼの』上巻284ページ）。

話し合いのための質問

- ① あなたはどれほど、人の意志が実際に「人類の墮落によってサタンの支配下に渡された」と感じますか。イエスの品性に注目することは、人の罪深さと大きな神の恵みをより深く理解するためにどのように助けとなりますか。
- ② ゲツセマネのイエスの物語を読んでください（マタ 26：36～42）。イエスの内にあった、神の御心とは対照的に、ご自身の感情、願いはどのようなものでしたか。私たちはこのことから何を学ぶことができますでしょうか。
- ③ あなたにとって霊的防御を崩し、サタンの攻撃の前に無力にする文化は何でしょうか。他の教会員にもその危険を知ってもらい、助け合うために何ができるか、クラスで話し合ってください。
- ④ あなたの周りにそのような誘惑の中にあってイエスから離れ、信仰を捨てそうになっている長欠者はいませんか。そのような人を励まし、具体的に助けるためにクラスとして何ができるでしょうか。